令和８年４月１５日更新

令和８年度 板橋区立天津わかしお学校 学校・寄宿舎経営方針

板橋区立天津わかしお学校　校長　松原　貴志

＜めざす学校像＞

心地よいリズム、一人ひとりのメロディ、人と人とのハーモニー

～みんなで奏でる天津わかしお学校～

１　はじめに

令和８年度の教育活動が始まりました。将来の予測が困難な時代において、教育の重要性がますます高まる中、板橋区では新たな教育ビジョン、「MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン 2035-」がスタートしました。

本校の経営方針の策定に当たっては、「MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン 2035-」踏まえるとともに山中佳子前校長の「学校という音楽を、学校に関わるみんなで一緒につくる」という理念を大切に受け継いでまいります。

天津わかしお学校を一つの「音楽」にたとえるなら、子どもたち、教職員、そして保護者の皆様は一人ひとり大切な「演奏者」です。互いの思いを奏で、聴き合い、響きを合わせながらオーケストラのように一つの音楽を創り上げていきたいと考えています。

音楽に不可欠な三要素 ―「リズム」「メロディ」「ハーモニー」。私たちはこの調和の精神を学校教育のあらゆる場面で形にしてまいります。

「リズム」：躍動感と生活の調和

生活の中にある心地よいリズムは、心身の安定を生みます。やる気に満ち、調子がよい時は、まさに「リズムに乗っている」状態です。

「メロディ」：子ども一人ひとりの個性

音楽の主役であるメロディは、子どもたち一人ひとりです。１０人いれば１０通りのメロディがあり、それぞれが「なりたい自分」という目標をもっています。異なる旋律が尊重され、等しく輝く場所でありたいと願っています。

「ハーモニー」：学び合いと支え合い

音が重なり、多様な響きが生まれるのがハーモニーです。時にはぶつかり合う緊張感（不協和音）もありますが、それを乗り越えて調和（協和音）へと向かう過程こそが、泣き笑いしながら共に学び、支えあう学校の姿そのものです。

＜みんなで奏でる学校を目指して＞

人の心に届く音楽は、一朝一夕には生まれません。演奏者が苦楽を共にし、信頼し合い、試行錯誤を繰り返しながら、心を込めて創り上げるものです。本校もまた。以下の柱を軸に、全力を尽くしてまいります。

- **健やかな成長**：健康な体づくりを主軸に、豊かな心と確かな学力を育みます。
- **人間味あふれる校風**：笑いと涙を大切にし、失敗から学び、伸びやかに成長できる学校を目指します。
- **独自の教育環境**：寄宿舎生活や豊かな自然、少人数教育という本校ならではの強みを最大限に生かします。
- **愛あるチームワーク**：全教職員が「大きな家族」として、一人ひとりを理解し、愛情をもって教育活動に当たります。
- **地域との絆**：第二のふるさとである天津の皆様に愛される学校を目指します。ここで得た経験が、子どもたちの「生きる力」となり、未来を切り開く糧となるよう努めます。

＜「チームわかしお」の教職員として＞

子どもたちの「憧れの存在」となるために、まずは私たち自身が元気で輝く存在でありましょう。学校経営を「自分ごと」として捉え、組織的に、そして情熱を持って職務を遂行していきましょう。「この学校を支えるのは自分だ」という誇りを胸に、共に歩んでいきましょう。

２　学校教育目標

「健康な子　　体力、学力、自信をつける」

学校及び寄宿舎における集団生活を通じて、人権尊重の精神を基本とした知・徳・体の調和を図り、自ら考え、判断し、主体的に行動できる人間性豊かで健康な心と体の児童の育成をめざす。

社会性と社会力を高め、児童が地域に戻った際に自信をもち安心して生活や学習できるようにする。

３　めざす児童像

目標をもち「なりたい自分」をめざして「か・つ・や・く」する児童

か･･･かんがえる　つ･･･つよくなる　や･･･やさしくなる　く･･･くじけない

◇かんがえる
- いつでもどこでもしっかり考えよう
- 自分の思いを言葉にして伝えよう
- 相手の気持ちを想像してみよう

◇つよくなる
- たくさん動いて、つよい体を作ろう
- 弱い心に負けない、つよい心をもとう
- 自分で判断して正しい行動をしよう

◇やさしくなる
- どの友達にもやさしくなろう
- 相手の喜びを自分の喜びと感じよう
- 感謝の「ありがとう」とあいさつを大切にしよう

◇くじけない
- 失敗してもあきらめず一歩前へ
- うまくいく方法を工夫してみよう
- 何度でもチャレンジしよう。

４　本年度の最重点教育活動

「MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン 2035-」が掲げる、「教育は人が幸せに生きるためにあります」という考え方のもと、「子どもを真ん中に据えた教育」を目指し、以下の５点を最重点教育活動として取り組んでまいります。

① 異年齢での学び合い

寮生活そのものを学びの場とし、寮長を中心に日々助け合って生活します。行事では６年生が主導して企画し、遊びも学年を超えて全力で楽しみます。日常のあらゆる場面で異学年が交流し、共に育つ環境を作ります。

② 自己調整型の学び

健康課題の改善に向け、児童自らが目標と計画を立てる主体的な学びを進めます。数値データをもとに、教員は助言者に徹して寄り添います。少人数制を活かし、一人ひとりの自己実現に向けた丁寧な指導を実現します。

③ 探究的な学び

地域の職場体験や自然観察を通じ、社会との繋がりの中で興味を広げます。SDGs を軸に、難民支援などグローバルな視点での探究も深化。地域から世界を見据えるイエナプランの理念に基づき、広い視野を養います。

④ 話合い活動の充実

行事の準備や進行を児童の対話に委ね、責任感と協力体制を築きます。学習発表会でもグループでのリサーチやプレゼン手法を話し合いで決定。主体的な工夫を凝らすプロセスを大切にし、豊かな表現力と一体感を育みます。

⑤ 子どもたちによる自治的な活動

寮長を中心とした終礼や「なかよし会」での議論を通じ、安全で楽しい共同生活を自ら作り上げます。互いの長所を認め合う「マイスター投票」などの活動も活性化し、互いを称え合い高め合う自治意識を醸成します。

６-1 学校・寄宿舎経営の基本方針

「学舎連携」の推進（心地よい緊張感のある学校と、癒しと楽しさのある寄宿舎の相乗効果）

◇心の育成（徳）

①児童理解に基づいた、個を尊重する温かい指導の徹底

・家族と離れて生活する児童の心情に寄り添い、学校・寄宿舎・家庭の三者が密に連携して心理的安定を図り、安心・安全な生活環境を構築する。

・学習、自立活動、食事、休み時間、行事など、全生活領域を通じて多角的に児童理解を深める。体罰や暴言を完全に排除し、心の通い合う対話的な関わりを深化させる。

・「振り返り」の時間を有効的に活用（キャリアパスポートや寮の終礼等）し、達成感や自己肯定感を醸成する。自己の成長や課題に気付かせ、自ら伸びようとする意欲を育む。

②基本的な生活習慣の定着と規範意識の醸成

・教職員自らが範を示し、心地よいあいさつ、返事、正しい言葉遣いを日常化させる。

・互いに「さん」付けで呼び合い、他者を尊重する言葉選びを徹底する。不適切な言動には、その場での個別指導により改善を図る。

・当番活動や整理整頓、生活時間の遵守を通じ、公徳心と責任感を育む。集団で使うものや場所、時間への意識を高める指導を行う。

③集団の中での役割意識と「なりたい自分」の実現

・多様な交流（異学年、地域住民等）を通して、寛容の心と思いやりの心、社会性を育む。

・自治活動（クラブ・委員会活動、寮長等）を活性化させ、リーダーシップと当事者意識（自分事として捉える力）を育成する。

・ＷＥＢＱＵ等の客観的指標を活用して児童の満足度を把握し、学級や寮への所属感・存在感を高める。男女・学年を問わず「全員が大切な仲間」である意識を共有する。

④感性を豊かにする環境整備と体験活動の充実

・芸術鑑賞や作品展示、校内の音・色・香りの環境整備により、癒やしと潤いのある空間を創出する。

・読書活動（読書集会、寄宿舎での読み聞かせ等）を充実させ、豊かな情操と読書習慣を養う。

・自然体験（海辺の学習、浜遊び等）や伝統行事を通じ、郷土愛と美しいものに感動する感性を育む。

◇確かな学力の定着（知）

①「板橋区授業スタンダード・スタンダードＳ」に基づく授業革新

・「わかる・できる」授業を展開し、学びに向かう力を育む。単元全体を見通したバランスのよい構成（導入：見通し→展開：思考・対話→終末：振り返り）を確立する。

・ＩＣＴ機器を効果的に活用する。
習熟：ドリル機能を活用した学び直しと基礎の定着
協働：思考の可視化と論理的なプレゼンテーション
支援：書字や計算等の苦手分野を補完する合理的配慮

・全教育活動を通じた語彙力の強化。教員・指導員が語意やイメージを丁寧に伝え、概念の理解を深めることで「読み解く力」の土台をつくる。

②教科担任制の活用と指導体制の最適化

・教科担任制により教材研究を深化させ、児童の興味・関心に応える授業を実現する。

・少人数の利点と人的資源（専科教員、非常勤教員、学力向上専門員等）を最大限に活用し、個々の実態に応じたきめ細かな個別最適な学びを実現する。

③学校・寄宿舎が連動した学習習慣の確立

・「学力向上担当」を中心に、意欲を高める宿題の内容・評価方法を工夫し、学校と寄宿舎が足並みを揃えて指導する。

・寄宿舎の自習時間を生活リズムに組み込み、舎監と指導員の役割分担（自習室での個別指導と部屋での個別指導）を明確にすることで、個別学習への抵抗感を軽減し、自学自習の態度を養う。

④教員の専門性の向上（ＯＪＴの充実）

・各種研修を通じ、発問、板書、ノート指導、ＩＣＴ活用等の指導技術を不断に磨く。教職員自らが学び続けるモデルとなり、組織的な指導力の底上げを図る。

◇視覚健康・体力づくりの充実（体）

①規則正しい生活リズムの定着と体力向上

・寄宿舎における規則正しい生活習慣の日常化を図る。体育授業、体育的行事、特別活動、自立活動、寄宿舎での１キロ走や自由時間の運動等を連動させ、心身ともにたくましい児童を育成する。
・運動量や体力の向上、健康課題の改善状況を可視化し、児童の達成感と意欲を喚起する。
・帰京期間中も、天津での生活習慣を維持できるよう、各種カードの活用や保護者会を通じた啓発を行い、家庭との連携を強化する。

②自立活動の充実

・「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」を重点項目とし、学校と寄宿舎の指導を効果的に連結させる。
・個別の指導計画に基づき、計画的・継続的な指導を徹底する。
・「天津っ子」「サン」「なかよし」「チャレンジ」「運動」といった各活動の意義を児童に周知し、主体的に健康回復・改善に取り組む態度を養う。

③食育指導・保健指導の充実

・食育においては、栄養士と連携し、「偏食改善カード」による可視化を行う。教員・寄宿舎指導員が、食事場面で個別に働きかけ、偏食や少食の改善を図る。
・保健指導においては、養護教諭、看護師、医療機関と連携する。身体計測やピークフロー値の記録を通じ、自身の成長や体調変化を自覚させる。
・児童が自ら進んで健康改善のための治療を受けられるよう、看護師・寄宿舎指導員・教員の三者が密に連携し指導に当たる。

◇研究推進

・本年度の最重点教育活動である５つの視点をもとに、児童を中心に据えた、主体的な学びを推進し、対話的な活動を通して、問題解決や目標達成の喜びを味わわせる。
・自己理解の深化と他者意識の向上を図り、多様性を肯定的に受け入れる関係を育む。
・教員と寄宿舎指導員が一体となった研究体制を構築し、各分科会に双方の職員を配置することで、多角的な視点から研究を深める。
・「子どもの健康づくり事業研究推進校」として、外部機関（株式会社タニタ等）との連携した教育活動である「天津ライフスタイル」を継承・発展させ、教育活動に反映させていく。

◇防災・環境整備

・「危機管理マニュアル」に基づき、立地特性を踏まえた津波避難訓練を重点化する。非常に大きな地震が発生した時の的確な判断力・避難行動力を日常的に培う。
・清掃活動、掲示物の工夫、花壇の管理等を日常から行い、清潔で落ち着いた学習環境を整える。

◇家庭・地域との連携

・学校だより、保護者会、ホームページ等を活用し、経営方針や教育成果を積極的に発信する。保護者からの評価を学校経営の改善に反映させる。
・学校紹介ＤＶＤや代表児童による「天津大使」の活動を通じ、本校の特色と魅力を広く外部へ周知する。

◇小・中連携

・前籍校、天津小湊小学校、安房東中学校との連携を深め、児童の成長を見据えた一貫性の教育を推進する。特にキャリア教育における安房東中学校との連携を強化する。
・地域の学校とのつながりを大切にし、円滑な進学に向けた「中１ギャップ」の解消に努める。

◇服務事故防止の徹底

・事務処理の正確性と迅速性を徹底し、「その日の業務はその日のうちに」を原則とする。
・教育公務員としての自覚をもち、人権意識の高揚を図る。体罰、不適切な指導、性暴力、セクシャルハラスメント等の根絶を徹底し、交通事故防止にも努める。
・個人情報（健康状況・成績等）の管理、および私費会計・給食事務等の会計処理は複数名による確認体制を敷き、適正な執行を徹底する。

６-2 寄宿舎経営の基本方針

（1）子どもにとって癒やしと楽しさがある寄宿舎

家族と離れて生活する児童にとって、寄宿舎での「楽しさ」は天津での生活を支える根幹である。

・豊かな人間性の育成：月例行事や年間行事を工夫し、生活に潤いと変化を与えることで、児童の喜びや意欲を喚起し、自立心と豊かな人間性を育む。

・自己肯定感の向上：「生活マイスター」等の取組等を推進し、児童の自己肯定感や所属感を高めるとともに、個々のよさを集団全体へ波及させる。

・指導員の役割と資質向上：指導員は「親代わり」としての自覚をもち、児童の持ち味を引き出す温かな指導力を磨く。そのために、不断の研修を通じて専門性と人間性を高める。

・人権の尊重：あらゆる人権侵害を断じて許さず、いじめや体罰のない、安全・安心な寄宿舎づくりを徹底する。

（2）子どもにとって安全な寄宿舎

保護者からの「天津わかしお学校は健康を回復し、心身を安全に委ねられる場所である」という信頼に全職員で応える。

・不祥事防止と人権意識：教育公務員としての自覚を持ち、体罰や不適切な指導、ハラスメント等を未然に防ぐため、高い人権感覚を保持し言動に細心の注意を払う。

・安全管理の徹底：施設・設備の点検は「全員の目」で定期的に行い、不備には迅速に対応する。校外活動における交通事故防止にも万全を期す。

・自助能力の育成：避難訓練等を通じ、児童自身が「自分の安全は自分で守る」という意識と力を身に付けられるよう、定期的かつ実践的な指導を行う。

（3）子どもにとって基本的な生活習慣が身に付く寄宿舎

健康回復のため、起床から就寝まで規則正しい自立的行動を促す。

・主体的な生活づくり：児童の実態を把握した上で、継続的な支援を行う。児童による話合いの場を尊重し、生活の振り返りやルールの見直しを行うことで、主体的な生活態度を養う。

・共感的な関わり：指導員は努めて児童と時間を共有し、受容と共感を土台とした教育相談的手法を大切にする。

・組織的対応：個々の課題に対しては、複数の職員による多角的な視点で状況を把握し、組織として適切な対応に努める。

（4）子どもの健康・生活状況が常に把握されている寄宿舎

疾患や身体的特質、多様な生活習慣をもつ児童が集う場として、早期発見・早期対応を徹底する。

・連携の強化：３名の主任寄宿舎指導員を中心に、指導員間の情報共有を密にする。さらに看護師、養護教諭との組織的な情報・行動連携を強化する。

・心のケアと環境整備：特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、担任等と密に連携し、不登校「０（ゼロ）」の継続を目指す。

・「天津ライフスタイル」の発展:外部機関（株式会社タニタ等）との連携による「子どもの健康づくり事業」の成果を継続し、本校独自の健康教育をさらに発展させる。

（5）身近な環境を生かした運営に努める寄宿舎

地域の自然や資源を教育課程に積極的に取り入れ、感性を育む。

・体験活動の充実：栽培、浜辺での採集、工作など、自然環境を生かした多彩な体験を通じ、生活に彩りを与える。

・地域交流：地域行事への参加やボランティア活動を通じ、感謝の心と豊かな人間関係を培う。特に地域散策「歩こう会」を充実させ、郷土への関心を高める。

（6）寄宿舎における運営委員の任務とその役割

・組織体制：寄宿舎指導員 12 名のうち、校長が任命する３名を運営委員とする。

・経営への参画：運営委員は月例の運営委員会に出席し、適切な情報提供や企画立案を行うことで、校長の学校経営を補佐する。

・指導・助言：主任寄宿舎指導員は、職務全般の企画立案を行うとともに、他の指導員に対して適切な指導・助言を行う。

・円滑な連携：学校と寄宿舎が同一の教育目標（健康な子：体力・学力・自信の育成）を共有し、校長・副校長・教務主任・生活指導主任らと密に連携して、円滑な寄宿舎運営を実現する。